Ver. :尖閣国有化1ヶ月時点

新たなフェーズの領土問題に如何に対応するか

大手町ニュースカレッジ
平成24年10月11日

NPO法人平和と安全ネットワーク
理事　山下輝男

1

主　要　経　歴

説　明　事　項

1　領土を巡る最近の動向
（1）竹島
（2）尖閣諸島
（3）北方領土
（4）我が国の対応
2　状況認識
3　我が国が採るべき対応策
（1）基本的事項
（2）共通的施策
（3）島嶼毎の対策(尖閣、竹島、北方領土)
4　終りに

3

Ⅰ　領土を巡る最近の動向
1　竹島

1　韓国による竹島の実効支配の状況

〇1952年1月李承晩ライン設定
〇1954年6月沿岸警備隊派遣常駐開始
〇逐次に実効支配の強化
警備隊の武装警察官45名、海洋水産部職員3名、海洋及び海洋警察庁による海域の武装監視、警備隊宿舎、灯台、船舶の接岸場、ヘリポート、気象観測台、1家族の居住、2005年観光入島解禁、戸籍承認不定期観光船、海洋科学基地建設計画、韓国軍事訓練空域指定etc
〇9月7日：韓国軍と海洋警察庁独島防衛合同訓練（上陸訓練は実施せず）
日本は中止要求＆抗議

2　韓国大統領等の暴挙
①　2012年8月10日　李明博大統領竹島上陸
②　天皇陛下謝罪発言、韓国国会の動き
③　非礼なる首相親書の返送

Ⅰ　領土を巡る最近の動向
１　竹島（２）

３　日本の対応（大統領の暴挙に伴う措置）
　野田首相（8月21日関係閣僚会議）
　　:毅然たる対応、未来志向
①国際司法裁判所(ICJ)への提訴提案
　共同付託→韓国拒否、日本単独提訴へ
②対抗策の策定や検討
　（政府間対話の一部延期、
　　追加措置の検討等）
③首相「不法占拠」と明言
④APEC2012(ウラジオ):日韓首脳会談なし
⑤日韓通貨スワップ延長せず（10/9）

握手に批判の声あり

5

Ⅰ　領土を巡る最近の動向
１　竹島（３）

４　日韓外相会談（9/28）
　平行線
　連携の必要性確認（対NK、FTAetc）
　所謂従軍慰安婦問題の絡み
　米国の懸念
５　韓国の積極攻勢策（10月以降）
　①世界ジオパークへの登録方針
　②外国メディア竹島取材協力
　③竹島広告予算計上
　④NYタイムズスクエアに慰安婦広告

６　海自ヘリ先月21日KADIZ侵犯と韓国報道(10/4)

７　日米韓高官級協議開催（10日午前）

6

Ⅰ　領土を巡る最近の動向
２　尖閣諸島（１）

１　経緯
(1)1969,1970年国連海洋調査報告書に
　大量の石油埋蔵の可能性の言及
(2)1971年6月に台湾、12月に中国領有権主張
(3)1992年2月中国領海法制定　中国領と明記
(4)中国の尖閣を巡る動向
　〇強化される中国の海洋覇権(次VG)
　〇度重なる侵犯、侵入事件の概要(次々VG)

1960年代の中国発行の世界地図　MSNwebから)

7

Ⅰ　領土を巡る最近の動向
２　尖閣諸島（２）

２　強化される中国の海洋覇権

①中国漁業監視船等の尖閣領海内や接続水域内への侵犯・侵入事件の増加
②尖閣海域での海保の調査活動中止要求
③尖閣周辺の71の無人島に名称、HPで公開
④人民日報:尖閣諸島を中国の核心的利益と位置付け・報道
⑤中国の東シナ海管轄当局者:尖閣沖の巡視は日本の実効支配打破のためと明言
⑥中国の9部門の海上法執行機関の統合による「国家海岸警備隊」創設構想(中国海軍少将)

8

Ⅰ　領土を巡る最近の動向
２　尖閣諸島（3）

３　中国による侵犯・侵入事件等の概要

1996年	9月	領海侵入香港活動家飛び込み1名死亡	
	10月	台湾、香港、マカオの活動家Gp上陸 五星紅旗、青天白日旗を	
1997年	5月	台湾、香港の抗議船団領海侵入	2名強制退去
2004年	3月	魚釣島上陸中国活動家7名沖縄県警逮捕 （入管難民法違反容疑）	入管引渡し強制送還
2008年	6月	台湾遊漁船領海内で巡視船と接触沈没 （乗組員は全員救助）	
2010年	9月	巡視船への中国漁船体当たり事件船長公務執行妨害で逮捕	不起訴釈放（政治判断？）
2011年	8月	中国の漁業監視船2隻、領海侵入	
2012年	8月15日	**香港の抗議船、不法上陸5名を含む14名逮捕**	強制送還＊VTR

9

香港活動家不法上陸海保ビデオ公開

10

Ⅰ　領土を巡る最近の動向
２　尖閣諸島（4）

４　今般の不法上陸事件に対する疑念等

①何故、易々と突破されたのか？
②入管法違反のみだったのか　公務執行妨害等は？
③彼等を英雄化したのみだったのでは？
　今回の措置が抑止になっていない、逆にインセンティブを与えてしまったのでは

④個人的行為と断じて良いのか？
⑤侵入・不法上陸の状況の詳細は？
　(必要な情報公開：遅い、指弾されてから)
⑥抑止態勢を強化するにはどうするのかの検討は？
　(10月頃　再度上陸を明言！)

11

Ⅰ　領土を巡る最近の動向
２　尖閣諸島（5）

５　我が国の動き等
①　尖閣国有化問題
・東京都：尖閣諸島購入方針(4/16)、募金、上陸申請、臨波条件、洋上調査(9/2)
　政府の対応→上陸不許可
・政府国有化(9/11)　2.5億円
・国有化の狙い：平穏且つ安定的維持管理
　その真意は→中国を刺激せず也！
②　2012年8月19日：
　洋上慰霊祭と地方議員等の上陸
③　2012年8月29日　領海警備体制強化のための法改正成立
　(強化による効果次VG)
④　8月27日駐中国大使車襲撃事件
　→中国の5日間行政交流処分(9/4)を容認か
　（厳罰要求せず？）
⑤反日デモや経済的打撃を恐れている！
　(愛国無罪の風潮理解し難し！)
⑥首相親書(8/31)
⑦日台漁業協議再開(中台連携に楔、久々の日のヒット)(10/7)

尖閣購入を閣議決定
予備費から20億5000万円

12

⑦ 中国人民解放軍南京軍区上陸演習？ 如何なる意図か？

⑧ 内向きの顔と外向きの顔の使い分け？

⑨ 尖閣国有化(9/11)を受けての中国等の動向（要約）
- 反日デモの拡大・暴徒化、日本人への暴力行為、大使館等公館襲撃、日本製品の不買運動、日中交流行事の中止、日中国交回復記念行事も一転してのデモの抑え込み、ネット攻撃
- 中国監視船（海監＆漁政）活動活発、度重なる領海侵犯（10/3:5回目）や接続水域の航行等10日連続常態化(10/10現在)（国連海洋法条約上退去要請のみ、それが解っているので図に乗っている?）
- 中国漁船大挙周辺海域に集結中(補助金？)、台湾漁船の領海侵犯(9/25)
- 中国新領海図を国連に提出
- 中国指導者の過激発言相次ぐ
- 全ての行動は政府の指導・統制もしくは了解下
- 経済的圧力強化　　・積極的対外広報の推進
- 国連総会での応酬（9月27日～）
- 領有権主張の論文英紙に公表(10/7)
- IMF、世銀総会(東京開催)への財務相、中銀総裁等不参加(抗議の意)
- 台湾：馬英九総統式典領有権主張、米紙に尖閣領有権主張広告(10/10)

○度重なる領海侵犯、接続水域入域常態化(10/8で連続8日)の狙いは！

＊日本組み易しと侮り、厭戦気分や無力感を醸成

①中国の管轄権既成事実化
②日本の尖閣諸島実効支配打破
③領土問題の顕在化
（国際社会へのアピール）

中国1960年発行の世界地図

＊歴史問題に絡めることによる日本国民や国際社会の同情論
（日清戦争に絡めた事実誤認の中国の発言（国連総会9/27））
＊長期的には第一列島線の分断・拠点確保→確保
（対米戦略、日本弱体化）

14

Ⅰ　領土を巡る最近の動向
２　尖閣諸島（6）

６　領海警備体制強化による効果

①海上保安庁の主要任務に領海警備任務、外国船舶の違法行動を取り締まる体制拡充（能力増大）
②　立入検査省略により「退去命令」や「拿捕」
③　遠方無人島の不審者への対応：海保対応可能
④　内部規則改正により物理的実力行使可能に
⑤　違法船舶の所有者や責任者への質問権

15

Ⅰ　領土を巡る最近の動向
３　北方領土（1）

１　経緯
（1）1945年8月28日～9月5日
ソ連第1極東軍　占領
以降1個師団規模の軍隊が常駐
（2）日ソ共同宣言（1956年12月）
平和条約締結後、歯舞・色丹返還
（3）爾来日ソ（露）交渉あるも進展せず
（4）1976年北方領土の日を制定（2月7日）

16

Ⅰ　領土を巡る最近の動向
３　北方領土（2）

２　最近の動向
①2010年11月、2012年7月
メドヴェデフ大統領＆メドヴェデフ首相の訪問
②2010年6月　大規模軍事演習
③2012年5月　韓国企業の択捉島開発参入
④2012年8月　揚陸艦派遣
⑤2012年8月　中国、ロシアに共闘呼び掛け？
⑥小島命名のロシア調査団9月5日出発との報道
⑦APEC2012：日露首脳会談(9/8),領土交渉活性化、12月訪露調整
⑧北海道今年度の択捉墓参中止(10/5)

実効支配の強化を顕示(その狙いは？)
首相と大統領の役割分担？

Ⅰ　領土を巡る最近の動向
４　我が国の対応

〇野田首相の記者会見（8月24日)骨子
①看過できず、
主権、領土・領海を不退転で守る
②竹島は戦後韓国が不法占拠
③国益を守るため主張すべきは主張

〇国会の竹島、尖閣抗議決議
衆議院（8月24日)
参議院（8月29日）

Ⅱ　状況認識

１　最近の領土を巡る関係国の動向は従前と異質

- 活動の活発化、強硬策、
- 明らかに一線を越えた常軌を逸した行動、
- 中・露・韓の連携？
- 日本の無策、政治の混迷
- 弱腰・配慮外交や圧力に屈し易い日本と見透かしての行動？
- 尖閣侵犯　⇒　威力偵察を兼ねている？　本気！
- 背景：国力増大と自信、国内問題の転嫁

新たなフェーズに突入

２　日本は相も変わらず、従来からの考えの延長線での対応では！
①穏便、平和的に、冷静に、大局的にetc口先のみの抗議
②経済的側面を重視して思い切った行動採れず
③彼の国の強硬策に無策、
④国民の意識：無力感？
⑤彼の国を刺激しないことが絶対的条件？
⑥日本側から仕掛けてはいない。後手、後手だ。受動に陥っている！
⑦悪く言えば無策、良く言えば冷静

日本は、彼の国から侮りを受けているのではないだろう？
一分の気概さえない国と国際社会からも蔑まされている。
名誉ある地位を保てるか？
このままでいいのだろうか？！状況と対応のミスマッチ

尖閣・竹島については、ナアナアでは済まされない状況

然しながら、野田政権もやっと重い腰を上げ始めた？が、不十分では

Ⅲ 対応策
１ 基本的事項

① 有言実行！
“毅然,不退転、圧力に屈せず、妥協せず”等の有言実行を！
(言辞に責任を)

② 国家としての覚悟を持つべし！一時的な経済的リスク等に怯むな！

③ 今為すべきことを為すべし！ 時間は余りない！！(焦眉の急は？)

④ 世界を味方に！

⑤ 国民の強い支持を！(分断策・離間策に乗じられぬこと！)
3戦(世論・心理・法律戦)へ対応、

⑥ あらゆるオプションを排除することなく検討・準備し、適切に発動

⑦ 後の先又は先手主義、主導権を！

⑧ あらゆるパイプは維持して、タフネゴシエートを、挑発には乗らず！

21

Ⅲ 対応策
２ 共通的施策

１ 国民に対する啓蒙教育や国民運動の展開

① 学校教育・歴史教育(他国を少しは見習え！)
積極的に我が国の正当性を教育すべし！
主権、領土・領海に対する理解、愛国心の涵養
2012年度中学校教科書:取り上げてはいるが、明確に表現していない

② 国民に対する啓蒙
領土・主権に関する啓蒙
島嶼を巡る状況の周知徹底

③ 国民運動 北方領土の日(2月7日)のみ制定
竹島の日は島根県制定 国は？
他に方法はないのか？

④ 関連情報の積極的公開と政府の考えを周知徹底
尖閣諸島体当たり事件や不法上陸事件等の情報公開
トップリーダーは語るべし！

22

参考:最近の世論調査結果

１ FNN(10／8)
対中(韓)姿勢:より厳しい姿勢で臨むべき＝8割近く
尖閣国有化:賛成＝75．1%

２ 日経(10／10)
対中姿勢:強い態度で＝56%
尖閣国有化:評価する＝66%

３ NHK(10／10)
対中姿勢:より強い態度＝41% 関係改善重視＝44%

４ 朝日(10／2)
尖閣国有化:評価する＝57%

５ 毎日(9／30)
尖閣国有化:正しかった＝63%

23

２ 世界への発信
① あらゆる場で我が国の立場を広報すべし
② PR用パンフレットの作成配布
(参考:韓国竹島広報誌35万部在外公館へ 9/1報道)
(9/21&10/1報道 政府尖閣・竹島広報戦略強化へ 外務省HP
在外公館を通じての広報 消極姿勢からの転換.∴遅かりし！)
③ 国際司法裁判所への提訴等
④ 国連での発信(9/27国連演説＆会見:日本の立場の表明、
義務的管轄権受諾を要求、妥協在り得ず)
⑤ 米・欧・ASEAN重視
⑥ 外国新聞への竹島政府広告(ノルウェー)
⑦ 中国米紙に尖閣全面広告(9/28付),
NYタイムズ著名コラムニストへの反論(10/3報道)

３ 危機管理態勢の再構築
① 警戒・監視体制、初動対処
② 法的整備(領域警備法の早急な制定
(平時から自衛隊が警察や海保を支援して領域侵犯
排除可能)
③ 政府の中枢危機管理体制の再構築
④ 関係機関の連携の強化

24

4　国を守る気概！（覚悟を!）

① 主権を守ることの意義・重要性を広く認識させる努力
② 外国の使嗾による不法行動は領域侵犯事案との認識
③ 国防意識の涵養（国家、主権の認識？）
④ 安保条約対象か否かに一喜一憂する前に、日本として
やるべきことある。（＊米政府は日米安保の対象と言明）
米国は本気で尖閣有事に行動するか？その前提は？

5　国力の増大等
他国から侮りを受けない国力
国家意識の涵養

＊　力の裏付け無き外交は無力

25

Ⅲ　対応策
3　尖閣諸島：喫緊の課題

尖閣諸島と他の島との決定的な差異は：日本が実効支配しているか否か！
この優位性を維持・強化することが需要

1　尖閣諸島の実効支配体制の整備を急げ！
①現状は実質的な実効支配が確立されているとは言い難い！
②国有化等(9/11実施)
③漁港・港湾施設(避難港含む)の整備、観光施設の整備、
周辺海域の資源探索拠点の整備、国民の自由な往来の許可、
灯台等の整備、等々
④南西諸島防衛態勢の強化

2　海上保安庁法の改正成立と体制強化
海上保安官に不法上陸者の逮捕権、新型巡視船新造予算要求（54億円）
意図的不法上陸者に対する法的強化

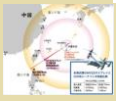
3　自衛隊への領域警備任務の付与
海上保安庁や警察の能力を超える事態への対処態勢の整備

26

4　南西諸島防衛
① 南西諸島防衛体制は？
整備・強化すべき体制
警戒・監視、初動対処部隊の能力増強
航空阻止、海上撃滅作戦能力
陸自の水陸両用作戦能力の強化
防空能力の強化、戦略機動能力の増大
日米共同作戦能力(訓練)
防衛体制空白部分対策

南西諸島への中国艦艇の現状

② 沖縄へのオスプレイの配備もこの視点でも



5　日米同盟の更なる深化（現在は日米安保は機能するとは思うが・）
鳩山政権で毀損した日米同盟→修復・深化し、強固に
無条件に信頼・期待するのではなく、不断の努力が重要

27

中国の活発な海洋活動と狙い

（対米戦略、資源獲得）

第一及び第二列島線

海軍発展戦略（1997年）で
概念強化

○戦力展開の目標ライン

○対米防衛線

10/4　中国海軍艦艇　宮古海峡　事前通告なし
の通過　　抗議の意思？

中国の狙い
①遠方での防御
②台湾独立阻止態勢
③海洋権益確保
④SLOC保護

尖閣：第一列島線の分断可能(台湾と同価値)

防衛白書(H24年版)　我が国周辺中国の活動

中国の南シナ海の力による強奪と実効支配

明日は我が身か？

中国と周辺諸国との領土紛争
①西沙諸島(パラセル諸島):中・台・越
②南沙諸島(スプラトリー諸島):中・台・越・比・馬・ブルネイの6ヶ国
③中沙諸島:スカボロー礁

西沙諸島
①WWⅡ後:中仏が部分的に実効支配を試みた
②サ条約で日本放棄
③1954年:西半分に南越軍駐留、同時に中国東半分を占領
④1974年1月:中国軍西半分に武力侵攻、越軍排除→以来中国の実効支配
2600m級の滑走路も

南沙諸島
①WWⅡ以前:仏が幾つかの島を実効支配
②サ条約で日本は領有権放棄　帰属権不明
③南越:1956年以降領有石柱等建設
④越・比・馬等の実効支配競争
⑤1988年2月:中国軍事侵攻し、幾つかの島占領
⑥中国は更に実効支配の強化(軍事建造物等)、他国も実効支配の強化策
⑦2012年6月21日:南シナ海の諸島を海南省の三沙市設立、解放軍駐留

29

中国の南シナ海の力による強奪と実効支配

明日は我が身か？

中沙諸島スカボロー礁
①中沙諸島で唯一海面上にある島　比のスービック湾から100カイリ
②中国とフィリッピンが領有権主張
③1980年代以降　比　のEEZ、米軍から継承
④2000年　領海侵犯した中国漁船船長を比が射殺
⑤2012年4月:比海軍が中国漁船の停泊を確認拿捕
中国は監視船を急派　　両者の睨みあい続く
⑥2012年6月17日:比　台風回避を理由に撤退

参考:(9月28日報道)
南支那海に空母戦闘群を3～4個配備　20年頃？

遼寧号(9/25就役)

参考2:中露領土紛争「珍宝島武力衝突事件](1969)
ソ連が実効支配していたが、交渉の結果、結果的には
ロシアが譲歩し、国境問題が2008年決着した。
中国が得た教訓は？

日中経済関係、日中国交正常化の状況、対中ODA

SANKEI EXPRESS

日中経済関係の現状

●モノ・サービス(2011年)	
中国への輸出	1614億ドル(1位)
中国からの輸入	1834億ドル(1位)
貿易総額	3449億ドル(1位)
●企業(2010年末)	
中国に進出している日本企業	2万2307社
●ヒト(2010年)	
訪日中国人旅行者	141万2875人(2位)

※日本貿易振興機構、日本政府観光局調べ

日中国交正常化40年の主な出来事(肩書は当時)

1972年 9月	田中首相が訪中し、日中共同声明に署名。国交正常化
78年 8月	福田(赳夫)内閣のもと、園田直外相が訪中し、日中平和友好条約に署名
89年 6月	天安門事件
92年 2月	中国が尖閣諸島を領土と明記した領海法を公布
10月	天皇、皇后両陛下が初訪中
95年 5月	村山首相が訪中。過去の歴史への「深い反省」を表明
98年11月	江沢民国家主席が来日。日中共同宣言を発表
2001年 8月	小泉首相が就任後、初めて靖国神社を参拝。中国が反発
05年 4月	北京や上海などで大規模な反日デモ
06年10月	安倍首相が日本の首相として5年ぶりに訪中
08年 5月	胡錦濤国家主席が来日。日中共同声明に署名
10年 9月	尖閣諸島周辺の領海内で中国漁船が海上保安庁の巡視船に衝突
12年 9月	日本政府が尖閣諸島を国有化。中国各地で反日デモ

2012年度予算対中ODA:42億5千万　累計:3.6兆円

Ⅲ　対応策
4　竹島

1　国家としてのプライドを堅持

2　これまで、敢えて避けてきた感(大人の対応？)があり、このような配慮
外交の付けではないか→積極的に正当性を主張、摩擦を恐れない

3　対日強硬策はマイナスでしかないことを認識させる→
政治的・経済的・文化的等のあらゆるオプションを駆使して毅然と対応
(エスカレーションラダー)(日本の優位性を活用)

4　韓国は重要な隣国であり、極東の平和と安定上、日米韓連携の重要性
を考慮すれば、決定的対決は避けたいとは思う
→良識ある韓国国民に訴える努力

5　政府に専任部署を

6　聞く耳を持たない相手に対する説得をどうするか、知恵を出そう！

(竹島カード:面子を潰さずに撤収させるべく硬軟両用の手を使う、時間はかかるが・・)

32

Ⅲ　対応策
５　北方領土）

１　基本的にはロシアも領土問題の所在を認めている！
　　焦点は４島の帰属

２　現在までの交渉を基礎として、粘り強く交渉

３　日露関係強化を梃にして領土問題を解決
　　領土問題解決が双方に益となる　（極東開発、資源問題）
　　良い所取りされぬように留意

４　中・露・韓連携の阻止

５　４島のロシア化の進展対応

Ⅳ　終りに

○徒に感情的に、センセーショナルに煽る積りはないが、
　国家としての品位は保持しつつも、為すべきを為すことが肝要
　消極的対応からの転換

○冷厳なる国際政治の現実
　（正義や事実が勝つとは限らない。）

○「穏便に」で、解決するか疑問、「毅然として」を具現すべき
　（今迄の付けの清算！）

○領土、主権等に関する国民啓蒙

○国難に対して与野党を問わず政治が国家意思を示すべし！
（戦略、政策を語るステーツマン↔政局に走る政治屋）
(政治の安定！！)

○異形の大国に如何に立ち向かうかの大戦略を！
　日・米（・台）・ASEAN・印・豪との連携を目指すべき

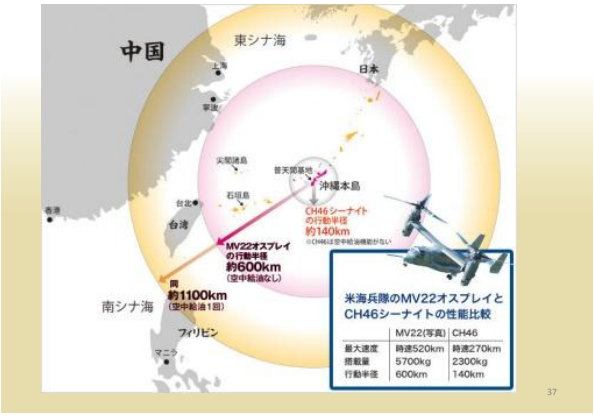
御静聴有難う御座いました

URL：http://yamashita-teruo.my.coocan.jp/

Email: yamashita-teruo@mbp.nifty.com

論　点

１　状況認識
　　今までと状況は異なっているか否か？
２　我が国政府の対応をどう見るか？
３　これ等の状況を総括すれば、どう考えるべきか？
４　これらの新たな状況にどう対応すべきか？
４　その基本的考え方は
５　そのような基本的考え方を実行し得るか？
６　かかる日本になったのは何故だろう？
７　尖閣国有化の是非、必然性等は？遅かった、早かった、
　　すべきではなかったetc
８　尖閣問題にどう対応すべきだろうか？
９　竹島、そして韓国に対しては？
１０　北方領土への対応は
１１　日本人に欠けたるものは？
１２　日本人の危機感は？
１３　政治家に求めるもの？
１４　日本の大戦略は？


中国
東シナ海
上海
寧波
日本
尖閣諸島
普天間基地
沖縄本島
石垣島
台北
台湾
香港
CH46シーナイトの行動半径
約140km
※CH46は空中給油機能がない
MV22オスプレイの行動半径
約600km
（空中給油なし）
同
約1100km
（空中給油1回）
南シナ海
フィリピン
マニラ
米海兵隊のMV22オスプレイとCH46シーナイトの性能比較
MV22(写真)
CH46
最大速度
時速520km
時速270km
搭載量
5700kg
2300kg
行動半径
600km
140km
37